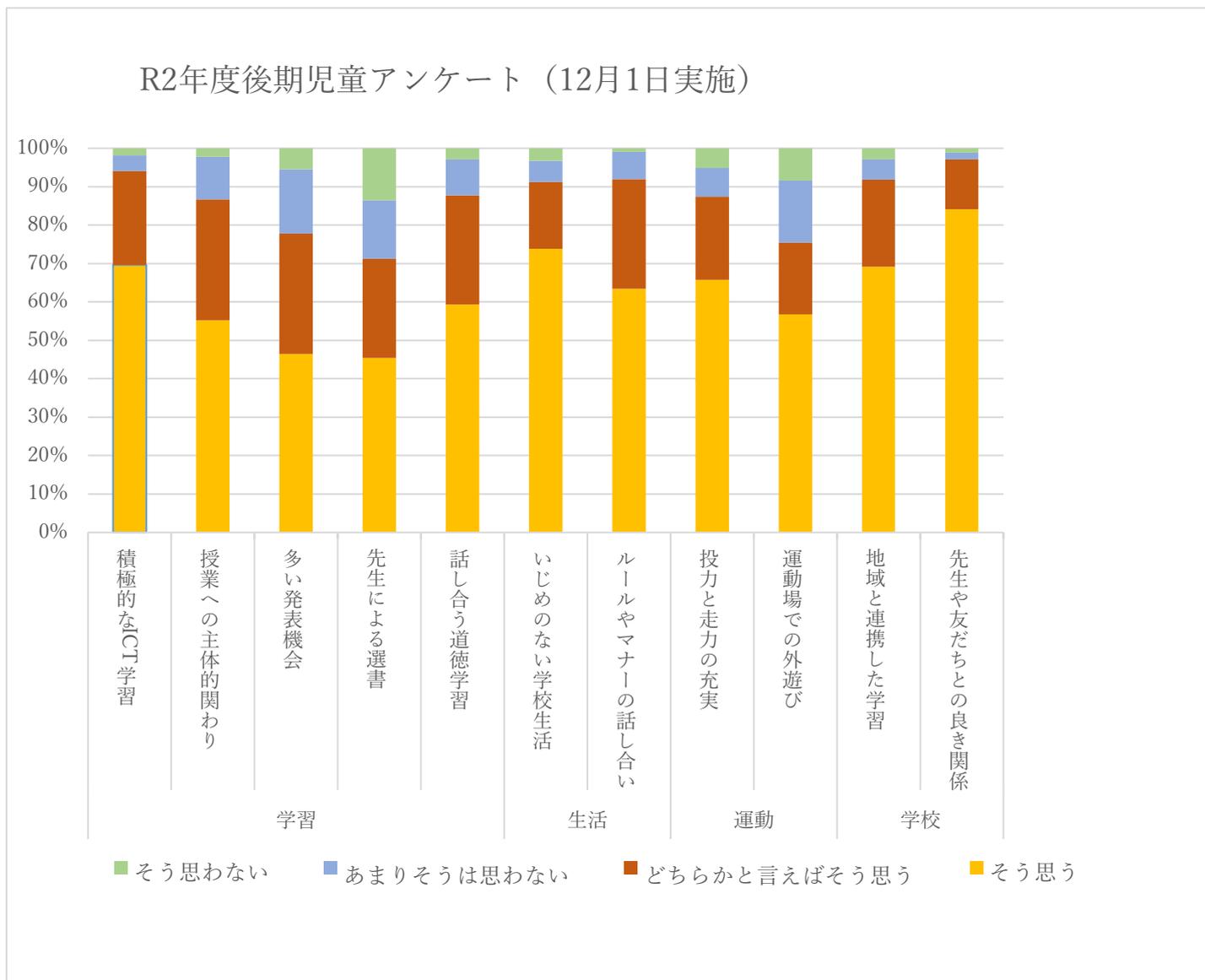


<令和2年度 後期 児童アンケート>



1、学習

(1)情報教育機器を使う授業

学校で、ICT 機器(パソコン、大型ディスプレイ、書画カメラ)を子ども自身が操作し、学習を進めていくことができたかどうかを問うと、94.0%が「できた」「どちらかと言えばできた」と答えました。前期アンケートよりも 6.6 ポイント上がっています。4年生では word や power point を使って児童一人一人がプレゼンテーションをしました。

生駒市では 12 月から小中学校の全児童生徒に、一人 1 台のタブレット端末を貸与します。日常的に使用できる新たな文房具として注目され、期待は高まっており、タブレット端末が家にあれば、子どもたちは家庭学習ができますし、ゆっくりと調べものをするすることができます。冬休みにはこれを各自持ち帰りますので、それを使って宿題ができます。

タブレット端末が「日常使いの文房具」になるためには、教員も子どもたちと同様に、日常的に使いこなせるようにならなければなりません。本校では、冬期休業中にタブレットの研修会を実施する予定です。3 学

期にはインフルエンザ等で学級閉鎖になった場合、タブレット端末でオンライン授業を行う予定ですので、子どもたちも使い方に慣れてほしいと思います。

(2)授業への主体的、積極的参加

「授業中に自分の意見を書いてまとめましたか」という質問に肯定的な回答をしたのは、86.7%で、前期の81.6%よりも5.1ポイント上がりました。本校の児童には、書いて考えることや、書きながら考えをまとめることが苦手な傾向があります。そこには、「考えるのは面倒だ」「考えると時間がかかる」「書くのは苦手」という心理があるのでしょうか。だから、すぐに答えられるドリル学習は好まれる家庭学習ですが、作文や日記を書く学習は苦手です。

だからこそ、本校教職員は、深く考える子どもに育ててほしいと願っています。書くことによって自分の思考を再構築し、再構築される過程で「理由」や「説明」が明確になり、自分の確固とした意見になります。書いて考えることがとても大切なことは、大人である私たちが一番よく分かっていると思います。私たちは、授業中、黒板に書いていることをノートに写すことで、理解を深めていきました。

担任は、書いてまとめる作業をできるだけ多く入れるため、ワークシートを作成して、まず一人一人に意見を書かせ、それから発表させたり、ディスプレイに表示したりして、意見交流を図っています。

(3)授業での発表や発言の増加

「自分の意見を発表する時間がたくさんありましたか。」という質問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは77.8%で、前期の70.6%を7.2ポイント上回りました。学校では前期アンケート後、具体的に次のような取組をしました。

- ①児童に発表前に発表原稿を書かせ、机間指導で認めたり褒めたりして自信を持たせる。
- ②授業中だけでなく、帰りの会で発表する機会をもつ。
- ③挙手していなくても指名して発表させる。
- ④話型を提示して、発表しやすくする。
- ⑤付箋やホワイトボードを活用する。

2学期は、多くのゲスト・ティーチャーが来校し、子どもたちに授業をしていただきましたが、その様子を見ますと、ゲスト・ティーチャーの「質問はありませんか」の問いに、どの学年でも多くの子どもたちが挙手します。物おじせずに発表や発言ができる子が多く、これは教職員の地道な取組が実を結んでいるのかもしれない。

(4)担任や学校図書館司書による選書

本年度は朝の読書タイムが学習タイムになりましたので、学校で本を読む時間が短くなりました。そのため、前期児童アンケートではこの項目を除いています。

後期も朝の読書タイムはありませんでしたが、「先生や司書さんが選んでくれた本を、読みましたか」と子どもたちに質問したところ、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは71.3%でした。

子ども一人一人に読書の満足感を味わわせることが、「もっと読みたい」という意欲につながると考え、担任は読書においても個に応じた指導を心掛けています。長文が苦手な子には絵本を紹介したり、国語教科書に出てきた本を紹介したり、すべての分類番号から1冊ずつ読ませたり、子どもの興味関心だけではなく、発達段階にも配慮しながら教員は選書しています。その結果、熱中して読んだ本を他の子に勧めることもあったそうです。

(5) 話し合う道徳学習

「道徳の勉強では話し合うことが多かったですか」という質問に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは 87.7%で、前期アンケートの 62.8%を 24.9 ポイント上回っています。2 学期は各学年でロテーション授業を実施し、1つの教材を一人の教員が全学級に対して授業しました。また、道徳科の公開授業を 3 度行い、どうすれば子どもの心に響く発問になるのか、どの場面で友だちと意見交流をすれば、自分の考えを深めることができるのかを考えました。時間をかけて、学年が一体となって道徳科の授業研究に取り組んだことが、この結果につながったと思います。さらに 3 学期も研修は続ける予定です。

2、生活

(1) いじめのない安心安全な学校生活

「いじめられず安心して学校生活を送ることができましたか」の質問に対し、91.2%の児童が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。11 月 30 日に全県下でいじめアンケートを実施し、本校ではその結果を基に、「いじめられた」「いじめられたり、いじめたりしているのを見た」と回答した児童にすぐに聞き取り調査を行っています。そして、それを校内の「いじめ対策会議」で検討し、今後の指導について話し合いました。

いじめについては早期発見、早期対応、未然防止が指導のカギになります。教職員はできるだけ子どもたちの日頃の様子からいじめを見抜くよう努めていますが、8.8%の児童が「いじめがある」と答えています。保護者の皆さんにもご協力いただき、悲しい思いをする子どもたちをなくしていこうと思います。

(2) ルールやマナーについての活発な話し合い活動

「学校の生活が良くなり、楽しく過ごせるよう、ルールやマナーについて学級で話し合いましたか」の問いに、肯定的な回答をしたのは 92.0%で、前期アンケートよりも 4.1 ポイント上がりました。学校のきまりについては、「あれ？これでいいのかな？おかしいぞ。」と気づいた時、すぐに教職員で意思統一を図ります。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、守らなければならない決まりがたくさんありました。また、特別教室への移動の際のルール、運動場の使い方、廊下歩行、掃除の仕方、給食時の返却方法などは、決まりが緩んできたと担任が感じたとき、その都度学級で話し合って確認しています。あいさつや礼儀などのマナーについて、これからも継続して指導していきたいと思います。

3、運動

(1) 投げる力や走る力の高まり

「投げる力や走る力がついたと思いますか。」という問いに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは 87.4%で、5.7 ポイント前期アンケートよりも上がりました。実際に昨年度の各学年の 50 メートル走とソフトボール投げの記録を見ますと、次のようになっています(○は前年度より記録がよかったもの、△は前年度よりも記録が悪かったもの)。

臨時休校をしていた 3 か月間は、子どもたちは外での遊びを制限され、人込みを避けて家で過ごすことが多かったと思いますので、体力の低下を懸念していました。50 メートル走では、1、2年生男女、6 年生女子の記録が前年度に比べて低下しています。ソフトボール投げでは、2 年生男子、5 年生女子、6 年生男子が前年度より低下しました。

学年	性	50メートル走			ソフトボール投げ		
		令和元年度	令和2年度	比較	令和元年度	令和2年度	比較
1年生	男	12.20秒	12.38秒	△	未測定	8.87m	
	女	12.22秒	12.55秒	△	未測定	6.03m	
2年生	男	10.61秒	11.40秒	△	12.48m	11.50m	△
	女	11.21秒	11.45秒	△	7.40m	7.67m	○
3年生	男	10.25秒	9.96秒	○	13.74m	15.56m	○
	女	10.60秒	10.35秒	○	10.08m	10.60m	○
4年生	男	9.74秒	9.69秒	○	17.65m	20.72m	○
	女	10.17秒	10.14秒	○	10.10m	16.14m	○
5年生	男	9.57秒	9.37秒	○	20.35m	20.85m	○
	女	9.84秒	9.79秒	○	13.04m	13.00m	△
6年生	男	8.96秒	8.91秒	○	25.40m	25.20m	△
	女	8.97秒	9.39秒	△	15.32m	16.41m	○

11月半ばに本校の体育部で手作りの投運動の遊具を設置してから、休み時間にはたくさんの児童がそこに集まって、楽しく競いながら遊んでいます。その姿を見ていると、コロナ禍で遊びを制限されていた子どもたちがいきいきとしており、そして、遊ぶ中で運動技能の基礎基本が養われていくことを実感しています。これからも子どもたちが熱中して取り組める遊具づくりを考えていきたいと思えます。

(2)積極的な外遊び

「朝や20分休み、昼休みは運動場に出て元気に遊んでいますか。」の質問に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは、前期アンケートで67.0%しかありませんでした。しかし、後期アンケートでは75.5%になっています。現在、多くの学級に遊び係があり、遊び係が係活動として週1~2回の学級遊びを計画し、学級全体に呼びかけているようです。これから寒くなる季節には、ドッジボール以外に、大縄跳びや鬼ごっこも体を短時間で温めることができるあそびです。担任も子どもたちに呼びかけ、積極的に外遊びに興じてほしいと思えます。

4、学校

(1)地域の方とのつながり

「地域の方に教えてもらったり、共に活動したりして、思い出に残る学習ができましたか。」の質問では、91.8%の児童が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。1学期は一斉授業の開始が遅れましたし、来校者の感染も懸念されましたので、地域の方との交流は中止していましたが、2学期になり学校の状況もコロナ感染の状況も落ち着きましたので、再開しています。

特に本年度は地域を知る学習(郷土学習)をどの学年にも取り入れています。1年生は、生駒の昔話を紙芝居などで教えていただき、生駒の地名について興味を持ちましたし、3年生は隣接する消防署や警察署の方に来ていただき、その仕事について学び、自分たちの暮らしを守る人に感謝する気持ちが芽生えました。また、4年生は防災学習でハザードマップを作成し、校区に避難所の多いことを知ったり、防災倉庫を見て自治会の自助や共助に感心したりしています。6年生は修学旅行で広島には行けませんでした。大阪大空襲の時の生駒の様子を地域の方に語っていただき、生駒でも戦争が身近にあったことを知りました。

いこま学級では、JA の協力を得て、朝市に参加し、葉ボタンをいただいて育てています。そして、市制50周年を記念するシンボルマーク選定に参加できたことも、生駒を知るきっかけになったと思います。生駒市の教育目標である「いこまを愛する子どもを育てる」ことに、これからも少しずつ取り組んでいきたいと思っています。

(2)先生や友だちとの良き関係

「先生や友達と楽しく過ごすことができましたか。」という問いに、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答したのは 96.4%から 97.1%になりました。子どもたちが楽しく学校生活を送っていることに安心しましたが、全校で16名が否定的な回答をしましたので、そのわけについて担任が聞き取り調査をしました。すると、その原因の多くを占めていたのが、友だちに誤解されている、友だちに自分の思いが伝わらない、ということでした。このような子どもたちに担任が親身になって寄り添い、解決策を共に考えることが大切だと思っています。